

## 備中とと道トレイル・サミット講師ご紹介

### ■ 「吉備高原の風土と歴史」

#### 神崎 宣武 氏

1944年、岡山県生まれ。民俗学者。国土審議会専門委員、文化審議会委員、公益社団法人伝統文化活性化国民協会理事、旅の文化研究所長などを歴任し、現在、東京農業大学客員教授、公益財団法人伊勢文化会議所五十鈴塾塾長、岡山県文化振興審議会委員などをつとめる。岡山県宇佐八幡神社宮司でもある。

主書に、「三三九度—日本的契約の民俗誌」（岩波書店）、「まつりの食文化」「社を持たない神々」「旅する神々」（角川選書）、「酒の日本文化」「日本人の原風景—風土と信心とたつきの道」（講談社学術文庫）などがある。

「私たちは、“古代吉備”の歴史をつないできている。1000年以上も経っているのに、随所にその面影がうかがえるのである。

古代吉備は、古墳群が示すようにその土地土地に有力者が群雄割拠するかたちでいたが、闘争が生じることはほとんどなかったようだ。いわば自治的な勢力圏が共存していた、と想定できる。それは、より巨大な大和の勢力や出雲の勢力との大きな軋轢や抗争が生じなかったことにも通じるだろう。経済的にも恵まれていただろうそこでは、それぞれに文化土壌も醸成していた、といえるのではなかろうか」

（「とと道見聞録」所収 P4より抜萃）

### ■ 「備中とと道トレイルの生み出した新たな価値とその未来」

#### 西山 徳明 氏

1961年福岡市生まれ。京都大学工学部建築系学科卒業。同大学院博士課程満期退学、博士（工学）、九州芸術工科大学・九州大学教授を経て2010年より北海道大学観光学高等研究センター教授。

専門分野は建築・都市計画学、観光デザイン、文化遺産マネジメント。

歴史的集落・町並みや文化遺産地域での観光まちづくりに関するフィールド研究、ヨルダン、フィジー、ペルー等の世界遺産地域での観光開発国際協力を展開中。

社会活動としては文化庁文化審議会専門委員、国土審議会専門委員、下郷町伝統的建造物群保存審議会委員、白川村景観審議会会長等を歴任。

「メンバーは古い地図、道標、祠、地蔵、そして辻堂などを頼りに史実を確かめ、地図上で同定し、「とと道」を現代において実際の空間である「歩く道」として蘇らせた。大変な苦労があっただろうがそれを楽しみ、道にまつわる時空を超えた様々な事象を多くの世代と共有しようとする姿に頭が下がった。

民間の好事家達から始まった地道な活動であったが地域住民の協力により維持され、周辺の地域からも多くの参加者が恒例のウォーク大会に集うようになり、地元の学校生徒にも参加する動きが出始めているという。それを知って、この活動は持続可能性が高いと思った」

（「備中とと道トレイルガイドブック」所収 P5より抜萃）